



国土交通省 関東地方整備局

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Kanto Regional Development Bureau

平成27年10月1日(木)

国土交通省 関東地方整備局

河 川 部

下 館 河 川 事 務 所

記者発表資料

第1回鬼怒川堤防調査委員会に関する補足説明

9月28日に第1回鬼怒川堤防調査委員会を開催しましたが、それに関する報道等を踏まえ、改めて説明しておくべきと考える主なポイントについて、下記のとおり補足させていただきます。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、茨城県政記者クラブ、栃木県政記者クラブ、埼玉県政記者クラブ、筑西市記者クラブ、宇都宮市政記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局
河川部 河川調査官 高橋 伸輔
TEL : 048-600-1419(災害対策室直通)

第1回鬼怒川堤防調査委員会に関する補足説明

9月28日に第1回鬼怒川堤防調査委員会を開催しましたが、それに関する報道等を踏まえ、改めて説明しておくべきと考える主なポイントについて、下記のとおり補足させていただきます。

記

○施設計画上の堤防の高さの決定プロセスについて

- 治水計画の策定にあたっては、長期的な整備の目標とする洪水流量（鬼怒川では100年に1回程度の流量）のうち、河道で分担する流量（計画高水流量）を設定した上で、この流量を流下させることができるような水位として、川幅や地盤高なども考慮して、河川の各地点で「計画高水位」を設定します。
- この「計画高水位」を前提として、
 - ・ 堤防の高さ
 - ・ 可動堰のゲートの高さなどの施設計画のほか、河川を渡る橋梁の桁下高なども決定されます。
- 施設計画上の堤防の高さは、河川管理施設等構造令に基づき、治水計画において定める「計画高水位」に、一定以上の余裕高さを加えて決定され、鬼怒川では計画高水位に1.5mを加えた高さとしています。

○鬼怒川の堤防整備の考え方について

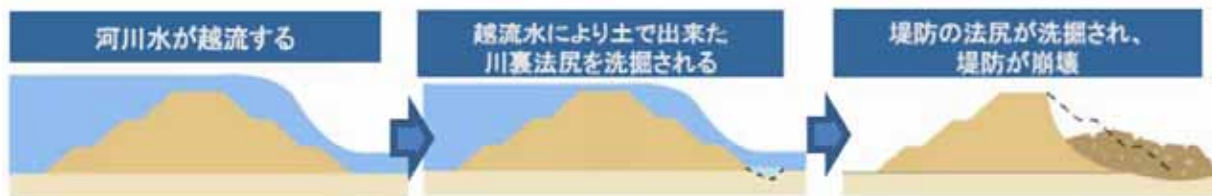
- 鬼怒川は、長期的な方針を定める河川整備基本方針では、100年に1回程度の洪水を安全に流下させることを整備の目標としています。
- 現在は、概ね30年に1回程度の洪水を安全に流下させることを目標に、整備を進めているところで、堤防整備もこの一環です。
- 報道で散見される「10年に1回」というのは、治水対策を実施する区間の優先順位を考える上での指標であり、鬼怒川における治水対策の整備目標や堤防の設計基準を表すものではありません。
- 具体的には、10年に1回程度の洪水も流せない区間を優先して、原則下流から順次整備を行っているところです。

○堤防決壊のメカニズムについて

- 堤防決壊のメカニズムを大きく分類すると下記のとおりです。
- なお、複合的な要因となる場合も多いことに留意が必要です。

河川水の越水による堤防決壊

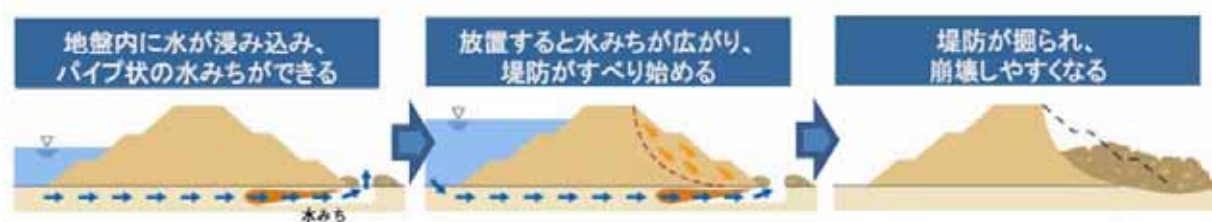
- 河川水が堤防を越流する。
- 越流水により土で出来た川裏（河川と反対側）の法尻^{のりじり}が洗掘される。
- 堤防の裏法尻^{うらのりじり}や裏法^{うらのり}が洗掘され、最終的に崩壊に至る。



河川水の浸透による堤防決壊

【パイピング破壊】

- 高い河川水位により地盤内に水がしみ込み、川裏側まで水の圧力がかかることにより、川裏側の地盤から土砂が流出し、水みちができる。
- 土砂の流出が続き、水みちが拡大して、堤防が落ち込み、最終的に崩壊に至る。



【浸透破壊】

- 降雨や高い河川水位により水が浸透し、堤防内の水位が上昇する。
- 堤防内の高い水位により、土の強さ（せん断強度）が低下し、川裏側ののり面が滑り、最終的に崩壊に至る。



河川水の侵食・洗掘による堤防決壊

- 河川水により堤防の河川側が侵食・洗掘される。
- 河川水による侵食・洗掘が続き、最終的に崩壊に至る。



○鬼怒川決壊区間の堤防の高さ（「周辺の高さよりも1 m以上低い」）について

- 鬼怒川では、堤防が必要と考えている区間の約4割しか完成堤防がありません。
- 今回の決壊箇所を含む約500 m区間における堤防の高さは、施設計画上の堤防高さと比較して、約0.25 m～約1.4 mの間で、おしなべて低い状況でした。
- この高低差は約500 mの区間の中でのなだらかなものであり、局所的に堤防が低くなっているなどの状況ではありません。

○「10年に1回の洪水に耐えられる堤防」との記述について

- 「10年に1回」というのは、鬼怒川における治水対策を実施する区間の優先順位を考える上での指標であり、治水対策の整備目標や堤防の設計基準を表すものではありません。
- 具体的には、10年に1回程度の洪水も流せない区間を優先して、原則下流から順次整備を行っているところです。